

令和7年度 事業計画・達成評価表

センター名	いけよんの郷	センターの 重点目標	○地域包括ケアシステムの実現に向けて、専門職個々のスキルの強化、地域活動の支援や多職種連携を図り、多世代に対して必要な情報の発信 ○高齢者の介護予防と自立支援の推進を意識し、地域住民やケアマネジャーへの介護予防・日常生活支援総合事業普及啓発のための研修会等の実施を継続	【達成度の目安】 S：目標を上回る A：目標通り B：目標をやや下回る C：目標を大きく下回る
	高齢者総合相談センター			

1-1. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する項目

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	高齢者総合相談センターの相談支援の充実	・複合的課題など複雑化するケースが増加しており、課題解決能力の向上とチームアプローチの強化が必要。 ・高齢者総合相談センターの周知を図り、地域に根差した相談支援を推進することが必要。	①個別ケースを所内で検討し終結まで進捗状況を確認する。 ②包括内での勉強会の実施。 ③出前相談、包括の周知活動。	①毎月 ②毎月 ③各区民ひろば1回、計月2回 包括通信の作成と配布。	①毎月 ②毎月 ③月2回	【取組と成果】 ①毎朝のミーティング、随時検討を行っている。月1回後追いにて進捗確認している。所内検討43件 ②包括会議前に実施。 ③区民ひろば22件(11、12月池袋本町休館)、7月包括通信300部を訪問時やつながるサロン、運営推進会議、出前相談にて配布。 【課題】 複合的課題・重層的支援など複雑化するケースが増加傾向に感じる、引き続き職員の課題解決能力の向上やチームアプローチの強化が必要。また、早期発見、早期対応が図れるように引き続き高齢者総合相談の周知が必要。	A
2	施策2. 生活支援の充実	ささえあいの仕組みづくり(地域資源の充実)	地域で様々な生活課題を抱え孤立した高齢者のみならず、ひきこもり等へも対応できる体制を整える必要がある。	①地域ネットワークのあり方を考察、実践することで、さらなる圏域全体の見守りネットワークの推進を図る為、地域関係機関(町内会、マンション管理人、金融機関、地域タクシー会社等)へ見守り協力依頼や情報共有。 ②第2層コーディネーターとの定例会で引きこもりがちである一人暮らしの男性を対象とした企画を計画しており、社会参加を促せるよう側面的な支援を行う。	①2回 ②CSW、2層生活支援コーディネーターとの情報共有、歴史講座の企画。	①2回 ②歴史講座の開催。	【取組と成果】 ①月2回。地域関係機関あいさつ回りにて周知。 ②一人暮らし男性向け:「わがまち講座」としてシリーズ化。第1回11月7日「歴史講座」郷土資料館館長による講話、戦前戦後の写真と今を比べる。55名のうち半数が男性の参加。第2回2月16日「思い出トーク会」池袋の昔と今の写真持ち寄り談話。26名参加。 多世代向け:10月29日平和湯にて「風呂端会議」災害について。11月19日「ここ楽サロン」レンタルスペースを活用した交流の場。 【課題】 令和7年度は新たな企画の立ち上げができた、活動が住民主体で継続して行えるような支援が引き続き必要。	S
3	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	介護予防ケアマネジメントの推進、自立支援・重度化防止に資するケアマネジャーの育成支援	今年度10月から通所型サービスの運用変更があり、総合事業の基本理念と一緒に周知の必要がある。	①地域ケアマネジャー向けに総合事業の研修を実施(年1回) ②ケアマネ地区懇談会(ケアマネらぼ)で総合事業の基本理念、事業内容の周知。 ③担当者会議(委託)でケアマネジャー、対象利用者へ短期集中サービス等の周知。	①「総合事業」研修の開催。 ②1回 ③周知数約30件	②1回 ③約30件	【取組と成果】 ①8月19日総合事業グループ係長を講師に実施。 ②6月17日、12月15日実施。 ③A8、通所C、訪問C、元気はつらつ訪問の周知数46件。担当者会議以外でも総合相談、モニタリング、区民ひろば、ケアマネ地区懇談会(ケアマネらぼ)MCS等で行っている。 【課題】 研修の実施等で総合事業運用変更に対するの混乱は少なかった。一方、研修やケアマネ地区懇談会等への参加事業所が固定化しており、参加出来ていない事業所へのアプローチの検討が必要。	A
4	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	訪問型・通所型サービスの推進	短期集中型や住民主体サービスにつながるケースが少なく、活用しきれていない。	①デイサービスの利用を希望する利用者に対し、希望理由の聞き取りを行い、適切な通所型サービス、訪問型C、元気はつらつ訪問の利用を勧める。MCSを活用し地域のケアマネジャーへ周知を図る。	①現在デイサービスを利用している利用者に対し、計画見直し時期に適切なサービスの検討をおこなう。	①デイサービスの利用を希望する利用者に対し、A8、通所型B・C、訪問型C、元気はつらつ訪問の説明を行い、利用につなげる。	【取組と成果】 ①8月19日にケアマネ研修として総合事業グループを講師に研修。10月以降はプランの更新時にアセスメントにて確認。A8:3件、通所型B:1件、訪問型C:13件、元気はつらつ訪問5件、通所C9件の利用につながった。 【課題】 総合事業の利用件数は増加傾向にある、委託ケースでの利用に関しては件数が伸びず、地域のケアマネジャーへの周知等が引き続き必要	A

優先順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
5	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	普及啓発・本人発信支援	認知症の高齢者が年々増えており、早期対応が必要なケースが増えている。	①区の事業であるもの忘れ相談や認知症初期集中支援事業を継続的に活用して、認知症の人を早期に発見・対応し認知症になっても安心して生活出来るように支援する。 ②認知症について地域住民(子どもから高齢者の多世代に向けて)へ講義を行い、認知症について新しい認知症観の普及啓発。	①もの忘れ相談2件 認知症初期集中支援事業1件 ②住民向け(9月)、子ども向け(8月)	①もの忘れ相談2件 認知症初期集中支援事業1件 ②住民向け(12月)、子ども向け(2月)	【取組と成果】 ①もの忘れ4件、初期集中2件。 必要な医療、介護保険サービスにつながった。 ②住民向け:6月3日、9月25日実施。 子ども向け:8月19日実施、2月25日実施。 区職員向け:2月20日実施。 認知症区民支援講座として10月21日「知って得! 食事から認知症予防」として食事をテーマで行う。参加者:区民43名、関係機関9人。申し込みが多く当初の定員を増員し実施した。 多世代に向けた普及啓発活動が行えた。 【課題】 軽度認知障害(MCI)や初期認知症の方を早期に発見するには、見守り担当やその他の専門職の相談に医療職も同行する中で、もの忘れ相談や初期集中支援事業につなげる事が必要。	A
6	施策2. 生活支援の充実	見守り支援事業担当による活動ー専門的な見守り	地域において様々な生活課題を持ちながらも孤立した高齢者に対し、課題の困難化を防ぐ。	①毎日のミーティングや包括会議等を通じ、包括内で情報共有を行ない、迅速に対応できる体制を整える。 ②アウトリーチ対象者名簿の共有や3職種同行訪問。 ③多機関・多職種との連携をしていく。	①毎日 ②2回 ③池2・3体操の会1回 えんがわ相談会2回	①毎日 ②2回 ③池2・3体操の会1回 えんがわ相談会1回	【取組と成果】 ①毎朝のミーティングにて実施している。 ②4月・7月・10月に共有、3職種同行2件。 ③体操の会5月・11月、えんがわ5月・9月・1月実施。民生委員、居住支援協議会、介護予防リーダー、リハビリ従事者連絡会、ひきこもり相談窓口職員等と連携を図り実施した。 【課題】 アウトリーチ対象者名簿の人数が増え、必要度を確認しながら名簿の精査が必要。	A
7	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	成年後見制度の利用促進	成年後見制度に直ぐにつなぐ状態になってから発見されることが多い。重度化する前に早期発見していくことが求められる。	①認知症のある高齢者への意思決定支援として、成年後見制度・地域福祉権利事業等の関係機関と連携。説明を通して、適切な事業につなげる様案内。権利擁護事業の説明、関係機関(サポートとしま、終活あんしんセンター、リーガルサポート等)との同行訪問、事業につながった件数を把握する。 ②地域住民やケアマネに周知・啓発活動を行う。 ③「精神保健福祉士による伴走型支援事業」の事例提出を通して、センター内のアセスメント力・対応力強化を図る。	①随時 ②出張相談1回 ③伴走型支援事業(7月事例提出、9月)参加をしたらセンター内で伝達研修する。	①随時 ②出張相談1回 ケアマネ地区懇談会(ケアマネらぼ)で周知年1回。	【取組と成果】 ①事業の説明33件、同行訪問6件、後見利用2件。 ②7月、11月、12月、1月の出張相談時に後見制度、サポートとしま・終活センターイベントの周知。 ③7/7伴走型支援事業、11/24見立て8型フォローアップ研修にて事例提出・伝達研修実施。12/15ケアマネ地区懇談会(ケアマネらぼ)にて消費者被害対策について啓発、ケアマネジャーによる後見制度・地域福祉権利擁護事業の実施状況のヒアリング。 【課題】 ケアマネジャーへのヒアリングで、困っている方ほど繋がりにくい現状を確認。早期に包括への相談につながるよう引き続き啓発していく。	A
8	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大	通所型サービスBや各サロンへの希望者が少ない。包括職員内でも持っている情報に差異があり、十分な案内が出来ていない	いけよん圏域のある介護予防リーダーが運営するiloinenモルック、ぶどうの木、サロンジャスミン、結アロマ、つながるんるんサロン、西池サロン、ドラムサークル、脳★若がえりサロンに訪問し、利用者のモニタリングおよび運営の様子を見学確認する。各サロン開催時に3職種、プランナー、見守り支援事業担当者が交代で訪問を実施	各サロン1回	各サロン1回	【取組と成果】 ぶどうの木4回、ドラムサークル1回、サロンジャスミン1回、つながるんるん1回、iloinen3回、結アロマ1回=11回 モニタリング訪問やフレイルチェック測定会に合わせて訪問。いけよん圏域に近いサロン(若返り体操サロン1回)や男性向けサロンに参加。 わくわくモルック5回、シスナブ体操の会2回。 【課題】 包括職員のサロン訪問への回数は増加したが、利用件数に大きな変化はなかった。モニタリング訪問回数は6回に留まった。引き続き職員が情報収集し、必要な方に提案できることが必要。	A

※施策は各高齢者総合相談センターの優先順位に応じてプルダウンから選択してください。施策3・施策4はそれぞれ2項目を選択してください。
※重点事業は「留意事項」シートを参考にし、各高齢者総合相談センターで設定してください。

1-2. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する指標

No.	項目	前年度実績	今年度目標	今年度実績
1	A8、通所C利用促進(回数)	6回	12回	12回
2	つながるサロン訪問(回数)	8回	16回	6回
3	区・包括主催元気はつらつ報告会(事例件数)	3件	3件	3件
4	地区懇談会(回数)	2回	3回	3回
5	出張講座・出張相談(回数)	33回	25回	26回
6	認知症サポーター養成講座(回数)	3回	4回	5回
7	認知症初期集中支援事業(回数)	1 回	2回	2回
8	もの忘れ相談(回数)	3回	4回	4回
9	認知症の地域づくり推進(回数)	0回	1回	0回
10	相談3事業(回数)	1回	3回	3回

2. 高齢者総合相談センターの運営体制に関する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	職員の資質向上	①包括内での情報の共有:毎日のミーティングで情報共有、毎月の包括会議で各ケースの進捗を確認、方針・対応方法を検討。 ②研修:包括内で研修会の開催(毎月)、外部研修の参加と参加者による伝達研修の実施(年6回)。	①随時。 ②包括内研修(毎月)、外部研修・伝達研修(3回)。	①随時。 ②包括内研修(毎月)、外部研修・伝達研修(3回)。	【取組と成果】 ①毎朝のミーティング、月1の後追い、随時検討している。 ②実施中。伝達研修6月ダブルケアラー、7月個人情報保護と情報セキュリティ、7月意思決定支援ガイドライン等を実施。 【課題】 外部研修に参加する職員は代表として参加している意識を持ち、伝達研修で学んだ情報を全職員が共有していくことで、効率的に情報を得る機会を持つことが必要。	A
2	事故防止・コンプライアンスの強化	①法人で実施している「事故防止委員会」に参画、他部署の事故報告書やヒヤリハット報告書も包括で共有し事故防止に努める。包括内でのヒヤリハット事例も委員会で共有し対応策を検討する。	①事故防止委員会に参加(3回)。	①事故防止委員会に参加(3回)。	【取組と成果】 法人の事故防止委員会に参加、包括でも受付業務等での漏れ等をヒヤリハット報告書で提出し対策を検討、実施している。 【課題】 ヒヤリハット報告書として上がらない事が多い。該当する事象が発生した際には自発的に報告できるよう、業務改善の一貫と職員が意識する事が必要。	A
3	業務改善・ICTの利活用	①社会資源用のラックを活用、ジャンルごとに整理して配置することで来所者、職員も必要な情報が得やすくなるよう整理する。 ②MCSを活用した多職種協働:いけよんプロジェクト事務局としてMCSを活用し多職種連携、プロジェクト内での情報共有を図る。地域ケアマネジャーへの情報発信でもMCSを活用する。	①社会資源の整理(毎週)。 ②MCSの活用(随時)。	①社会資源の整理(毎週)。 ②MCSの活用(随時)。	【取組と成果】 ①定期的にラックの整理。ジャンルのタイトルをつけ一般の方でも情報収集しやすいように展示する予定。 ②いけよんプロジェクト、ケアマネらぼで活用。新規事業者も追加している。ケアマネジャーへの情報発信の場として活用した。 【課題】 MCSを地域のケアマネジャーへの情報発信の場として活用できている一方で、登録するが、確認しているか不明な事業所も多く、より有益な情報の発信と登録事業所への周知が必要。	A

3. 高齢者総合相談センターが独自に設定する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	いけよん圏域における多職種連携の推進	・地域包括ケアシステムの構築を推進させるため、いけよん地区の多職種連携活動体であるいけよんプロジェクトの事務局運営を担う。 ・プロジェクト内で研修会の開催(年2回)、地域活動への参加協力(年2回)、中学生向け授業の企画・実施	・地域活動への参加(盆踊り大会) ・会員向け研修会の開催	・地域活動への参加(池袋本町商人まつり) ・地域住民向け研修会の開催 ・中学生向け特別授業	【取組と成果】 いけよんプロジェクト事務局運営を担い、毎月のコアミーティングを実施した。6月の総会開催時に会員、住民向けに「災害時の対応について」講演会を実施。11月には住民向けに「自宅にあるものでできる応急処置」、2月は多職種向けに「多職種で考える臨床倫理」の研修会を実施。7月には地域盆踊り大会への施設入所者の参加支援や救護所の設置、10月には地域イベント「池袋本町商人まつり」へ出店し、アンケートを実施し地域課題を抽出、健康相談、福祉相談も行った。 【課題】 前年度中学生に対しての特別授業を再開できたが、今年度は中学校へのアプローチは行ったものの学校側の事情で開催には至らなかった。多世代へのアプローチとして引き続き学校へアプローチしていきたい。	S

令和8年度 事業計画・達成評価表

センター名	いけよんの郷	センターの 重点目標	○地域包括ケアシステム実現に向けて、研修を活用し専門職個々のスキルを強化、地域活動の支援や多職種連携を図り、多世代に対して必要な情報の発信 ○高齢者の見守り支援や総合相談の機能を強化し、関係機関と連携を図り問題解決にあたることで、地域からの孤立を防ぎ、社会生活の安心を確保	【達成度の目安】 S：目標を上回る A：目標通り B：目標をやや下回る C：目標を大きく下回る
	高齢者総合相談センター			

1-1. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する項目

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	高齢者総合相談センターの相談支援の充実	・複合的課題など複雑化するケースが増加しており、課題解決能力の向上とチームアプローチの強化が必要。 ・高齢者総合相談センターの周知を図り、気軽に相談できる場所として認知してもらうことが必要。	①個別ケースを所内で検討し終結まで進捗状況を確認する。 ②包括内での勉強会の実施。 ③出前相談、包括の周知活動。	①毎月 ②毎月 ③各区民ひろば1回、計月2回	①毎月 ②毎月 ③月2回 包括通信の作成と配布。	【取組と成果】 【課題】	
2	施策2. 生活支援の充実	見守り支援事業担当による活動ー専門的な見守り	地域で様々な生活課題を抱え孤立した高齢者のみならず、ひきこもり等へも対応できる体制を整える必要がある。また、アウトリーチ対象者の増加に伴い名簿の精査が必要	①毎日のミーティングや包括会議等を通じ、包括内で情報共有を行ない、ケースに応じた対応を行う ②アウトリーチ名簿の精査を行うと共に、地域の気になる方の情報は随時包括内で共有し、必要に応じた対応を行う ③多機関・多職種との連携をしていく。	①毎日 ②随時 ③池2・3体操の会1回 えんがわ相談会2回	①毎日 ②随時 ③池2・3体操の会1回 えんがわ相談会1回	【取組と成果】 【課題】	
3	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	訪問型・通所型サービスの推進	委託ケースでの短期集中型や住民主体サービスにつながる件数が伸びていない現状があり、総合事業が活用しきれていない。	①新規利用希望者の相談時や、委託ケースの担当者会議等において、状態に応じて必要な通所型、訪問型サービスを提案する。 ②MCSやケアマネ地区懇談会を活用し地域のケアマネジャーへ周知を図る。	①随時:A8:4件、通所型C:4件、通所型B:1件、訪問型C:2件、元気はつらつ訪問2件 ②MCS:随時 地区懇談会1回	①随時:A8:4件、通所型C:4件、通所型B:1件、訪問型C:2件、元気はつらつ訪問2件 ②MCS:随時 地区懇談会1回	【取組と成果】 【課題】	
4	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	普及啓発・本人発信支援	軽度認知障害や初期認知症の方を早期発見、早期対応が必要	①区の事業であるもの忘れ相談や認知症初期集中支援事業を継続的に活用して、認知症の人を早期に発見・対応し認知症になっても安心して生活出来るように支援する。 ②認知症について子どもや区の職員に向けての講義を行い、認知症について新しい認知症観の普及啓発。 ③来年度の地域住民に向けた認知症講座開催に向け、法人職員向けに講座を開催し、内容の検討を行う ④見守り職員と医療職の情報共有や同行訪問	①もの忘れ相談2件 認知症初期集中支援事業件1件 ②区職員向け(6月)、子ども向け(8月) ③法人職員向け3回 ④随時	①もの忘れ相談2件 認知症初期集中支援事業1件 ②子ども向け1回 ③法人職員向け1回 ④随時	【取組と成果】 【課題】	
5	施策2. 生活支援の充実	ささえあいの仕組みづくり(地域支援の充実)	・閉じこもりがちな男性高齢者等、地域で様々な生活課題を抱え孤立した高齢者への対応が必要 ・令和7年度新たに立ち上げた活動が、住民主体で継続できるような支援が必要	①地域関係機関(町内会、マンション管理人、金融機関、地域タクシー会社等)へ見守り協力依頼や情報共有。 ②第2層コーディネーターとの定例会で引きこもりがちである一人暮らしの男性を対象とした企画を行っており、引き続き社会参加を促せるよう側面的な支援を行う。	①2回 ②隔月	①2回 ②隔月	【取組と成果】 【課題】	
6	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	成年後見制度の利用促進	判断能力の低下等で不利益を被らないよう、対象者を早期に把握し必要な制度に繋げる必要がある	①認知症のある高齢者への意思決定支援として、成年後見制度・地域福祉権利事業等の関係機関と連携。説明を通して、適切な事業につなげる様案内。権利擁護事業の説明、関係機関(サポートとしま、終活あんしんセンター、リーガルサポート等)との同行訪問、事業につながった件数を把握する。 ②リーガルサポートとの関係強化を目的に研修会等を企画	①随時 ②企画	①随時 ②研修の実施	【取組と成果】 【課題】	

優先順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
7	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	介護予防ケアマネジメントの推進、自立支援・重度化防止に資するケアマネジャーの育成支援	委託ケースでの総合事業活用が充分でなく、圏域の居宅介護支援事業所にもれなく総合事業の基本理念と一緒に周知の必要がある。	①ケアマネ地区懇談会(ケアマネらぼ)で総合事業の基本理念、事業内容の周知。不参加の事業所も内容を確認できるようMCSを活用 ②担当者会議(委託)でケアマネジャー、対象利用者へ短期集中サービス等の周知。 ③元気はつらつ報告会を活用し、総合事業活用成功事例の共有や多職種連携の必要性を学ぶ	①1回 ②随時 ③1回	①1回 ②随時 ③2回	【取組と成果】 【課題】	
8	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大	通所型サービスBや各サロンへの希望者が少ない。地域住民のニーズに合わせた啓発活動ができる十分な情報収集が必要	いけよん圏域や近隣のサロン(iloinenモルック、ぶどうの木、サロンジャスミン、カラオケサロン木蓮、つながるんるんサロン、西池サロン、ドラムサークル、脳★若がえりサロン)に訪問し、利用者のモニタリングおよび運営の様子を見学確認する。各サロン開催時に3職種、プランナー、見守り支援事業担当者が交代で訪問を実施	各サロン1回	各サロン1回	【取組と成果】 【課題】	

※施策は各高齢者総合相談センターの優先順位に応じてプルダウンから選択してください。施策3・施策4はそれぞれ2項目を選択してください。

※重点事業は「留意事項」シートを参考にし、各高齢者総合相談センターで設定してください。

1-2. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する指標

No.	項目	前年度実績	今年度目標	今年度実績
1	つながるサロン訪問(回数)	6回	6回	回
2	区・包括主催元気はつらつ報告会(事例件数)	3件	3件	件
3	地区懇談会(回数)	3回	3回	回
4	出張講座・出張相談(回数)	26回	24回	回
5	認知症サポーター養成講座(回数)	5回	3回	回
6	認知症初期集中支援事業(回数)	2回	2回	回
7	もの忘れ相談(回数)	4回	4回	回
8	認知症の地域づくり推進(回数)	0回	2回	回
9	相談3事業(回数)	3回	3回	回

2. 高齢者総合相談センターの運営体制に関する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	職員の資質向上	①人事考課での各職員の希望受講研修の把握、参加後の確認と目標設定 ②包括内での研修の実施(毎月) ③外部研修への職員の参加と参加職員による包括内での伝達研修の実施	①各職員1回 ②毎月 ③3回	①各職員1回 ②毎月 ③3回		
2	事故防止・コンプライアンスの強化	①法人で実施している「事故防止検討委員会」に参画、他部署の事故報告書やヒヤリハット報告書も包括で共有し事故防止に努める。包括内でのヒヤリハット事例も委員会で共有し対応策を検討する。	①毎月	①毎月		
3	業務改善・ICTの利活用	①MCSを活用した多職種協働:いけよんプロジェクト事務局としてMCSを活用し多職種連携、プロジェクト内での情報共有を図る。地域ケアマネジャーへの情報発信でもMCSを活用する。	①随時	①随時		

3. 高齢者総合相談センターが独自に設定する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	いけよん圏域における多職種連携の推進	・地域包括ケアシステムの構築を推進させるため、いけよん地区の多職種連携活動体であるいけよんプロジェクトの事務局運営を担う。 ・プロジェクト内で研修会の開催(年2回)、地域活動への参加協力(年2回)、中学生向け授業の企画・実施	・地域活動への参加(盆踊り大会) ・会員向け研修会の開催	・地域活動への参加(池袋本町商人まつり) ・地域住民向け研修会の開催 ・中学生向け特別授業		